

## 修 士 論 文 の 和 文 要 旨

大学院電気通信学研究科      博士前期課程      人間コミュニケーション学専攻		
氏                      名	岩崎    哲郎	学籍番号    0436004
論   文   題   目	「かわいい」の経時的・共時的変動 - 意味と表記を中心に -	
<p><b>要      旨</b></p> <p><b>背景と目的</b></p> <p>近年、「かわいい」という語が、従来の辞書的意味に収まらないような多様なニュアンスをともなって、広く使われている。海外でも日本語の音をそのまま用いた「Kawaii」が用いられるようになってきた。企業にも「かわいい」を前面に押し出したものづくりを行う動きが見られる。これらは「かわいい」に高い価値を認める立場だが、その一方で「言葉の乱れ」「女性、子供に対する蔑視」など「かわいい」に対して否定的な意見も存在する。</p> <p>今日、「かわいい」は広く認知されており、その使用はさらに拡大する可能性がある。しかし、その概念は曖昧であり、定量的な分析の試みもいまだ少ない。そこで本研究では「かわいい」を対象として、感覚印象表現に関する言語的知識の構造について考察を行う。</p> <p><b>方法</b></p> <p>様々なメディアを対象に、「かわいい」および関連形容語の使用の経時的・共時的変動を探った。「かわいい」とその他の形容語との比較を通じて「かわいい」の位置づけを、構造的に理解することを目指した。</p> <p>対象としたメディアと、主な調査内容は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文芸作品を対象として、「かわいい」の用例から、言葉の成立から近代に至るまでの意味、表記の変動を探った。</li> <li>・過去30年分、および最近1年分の雑誌の目次見出しを対象に、使用頻度、用法の変動を探った。特に雑誌のジャンル、読者の年齢層による使用動向の差を調べた。</li> <li>・Web検索エンジンを用い、形容語と名詞のフレーズ検索結果から、形容語の分類を試みた。</li> </ul> <p><b>結果と考察</b></p> <p>上記の調査から、以下のような点が明らかになった。</p> <p>「かわいい」は歴史的に2度、大きな意味の変化を経てきたが、その根底にある認識の型や感情の動きは、語源となった「顔映ゆし」のもつ「顔が上気するような感情の高ぶり」を保持し続けている。</p> <p>女性向けファッション雑誌において、「かわいい」は他の形容語と結びつくことで、その意味・適用範囲を拡大し、限定的な意味を持たない感動詞的な使われ方が多くなっている。</p> <p>「かわいい」は比較的高い年齢層の女性を対象としたメディアで多く用例が見られ、他の形容語との合成語の種類も豊富だった。一般に思われているよりも高い年齢層の女性において「かわいい」の受容性は高く、多くの価値を認められているようだ。</p> <p>Webで収集した共起データにおいて、「かわいい」はプラスイメージの印象形容語群とゆるやかな連関を示したが、形容語全体の分類は不明確なものだった。</p>		